



発行所 鹿児島県姶良郡姶良町役場

(印刷所)

発行人 岩根清春 編集人 伊集院博隆

キング堂

町の人口動態 (昭和50年12月31日現在)	
世帯数	8,550戸 (+19)
人	12,575人 (+45)
口	14,157人 (+56)
	26,732人 (+101)
9月の	出生 29人 死亡 17人 転入 200人 転出 111人



(場内を埋めた新成人)



(ロビーでの受付風景)

## 成人の火を燃やしつづけよう

### 厳かに五十一 年成人式

姶良町の成人式は、一月五日午人は、男子二百七十六人、女子二百七十二人の計五百四十八人。このうち三百四十人余りの皆さん

参加があり、ホールやロビーは、振り袖姿のお嬢さんで輝かんばかりでした。

今回の式はキャンドル式典、場内の照明が全て消され、自主創造、友情、協調、人間性、社会性を象徴する「成人の火」が岩根町長から六人の新成人へ、さらに場内の皆さん的心へと分火されていました。ゆらゆら燃えるローソクの灯の中でそれぞれが「二十歳」の今を感じている…そのような

式典が終わると引きつづいてアトラクションに移り、鬼塚スギ子さんの琴演奏、フォークグループナニヤンマのギター演奏、町出身の歌手司千春さんの歌、姶良ギターランサンブルの演奏など行なわれ、記念撮影をして終了しました。

今年の成人式は、成人式の在り方を見直そう、新成人の皆さん的心に残るものとということでキャンドル式典の形式となつたものですが、厳肅な雰囲気が好評を得ておりました。「多勢の人の集まる中で、自分というものをみつめられるような静かで落ちつきのある空間を創り出せたようです」というのが式典の準備に当った関係者の意見です。

厳肅さが漂っているようでした。

このあと、岩根町長は無事に成人式を迎えたことを祝いながら「人を愛する心（人間愛）をた

いせつにして立派な社会人になつてください」とあいさつ、新成人を代表して、福元磯美さん（西之妻）黒木孝義君（白金原）井戸光代さん（馬場）亀沢春寿君（三拾町）が成人の主張と題して意見



## 町長岩根清春

御無事の御越年と辰  
年の新春を心からよろこび申し上げます。

のぼり龍のような町政の発展を念じつて正月を迎えた。破魔投げに夢中になつた村童の頃の思い出、鬼火た

きやもぐらうちなど……今を昔にかえすよすがはなきものかと、素朴で友愛のある古里につつみこまれたかつての正月の思い出にふれる楽しいひとときも得ることができました。

昨年十一月には町政二十周年記念式典も無事終えることができ、新たな町政への第一歩として輝かしい新年を迎えた。

町長就任一年目を一步・一步着実に前進させていきたいと考えます。そしてこのことは、ひとり私

きやもぐらうちなど……今を昔にかえすよすがはなきものかと、素朴で友愛のある古里につつみこまれたかつての正月の思い出にふれる楽しいひとときも得ることができました。

県営は場整備事業（一・三工区）  
南島土地区画整理事業、重富第一工地区画整理事業、林道構造改

善事業（堂山線）の着手、消防施設整備事業（船津、北山、木津志の消防車購入）、水源拡張、町公館結婚式場の開設、公民大学の充実につとめてまいりました。

そのほか報告しなければならないものも数多くありますが、財政危機に直面して、水道料金改定、老人福祉センター・使用料改定、国民健康保険税率改正のやむなきに至りました。上場地帯の道路関係

セントと百二十二・一パーセントであったものが、昭和五十年度は石油ショック等による国税減収で百十三・一パーセントと十パーセント以上の落ち込みで、財政圧迫の大きな要因となつております。

財政建直しの手法はいろいろあります。そ

のためには、執行部と議会とが一

体となり、英知を集め、たゆまぬ勉強と努力が必要だと存じます。

だからといって執行部と馴れ合いではいけません。お互いに侵さず

侵されず、均衡のとれた行政、民

の他大小の災害復旧事業が行なわれました。又、下水路の設置や道

路舗装及び道路拡張の陳情が沢山

あります。議会におきましては

赤字公債を発行して收支のバランスをとり国民の要望に応えており

ます。町村においては、限られた財源の中で町民のご要望に応えてゆかねばなりません。いかにして皆様の付託に応えていくべきかが今後議会に課せられた責任であります。

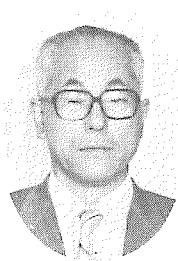
これら問題を解決するため、

町民皆様の絶大なるご支援・ご協

力を議会にたまわりますよう心か

らお願い申し上げて、新春のご挨拶といたします。

## 議会議長森川重男



町民の皆さん、明けましておめでとうございます。昨年は選挙が行われなれ、皆様方の厳しい審判を受け二十四名の議員が誕生し、新しい議会が構成されまだ一年足ら

るところ申し上げます。

のぼり龍のような町政の発展を念じつて正月を迎えた。破魔投げに夢中になつた村童の頃の思い出、鬼火た

きやもぐらうちなど……今を昔にかえすよすがはなきものかと、素朴で友愛のある古里につつみこまれたかつての正月の思い出にふれる楽しいひとときも得ることができました。

昨年十一月には町政二十周年記念式典も無事終えることができ、新たな町政への第一歩として輝かしい新年を迎えた。

町長就任一年目を一步・一步着実に前進させていきたいと考えます。そしてこのことは、ひとり私

のためには、執行部と議会とが一

体となり、英知を集め、たゆまぬ勉強と努力が必要だと存じます。

だからといって執行部と馴れ合いではいけません。お互いに侵さず

侵されず、均衡のとれた行政、民

の他大小の災害復旧事業が行なわれました。又、下水路の設置や道

路舗装及び道路拡張の陳情が沢山

あります。議会におきましては

赤字公債を発行して收支のバランスをとり国民の要望に応えており

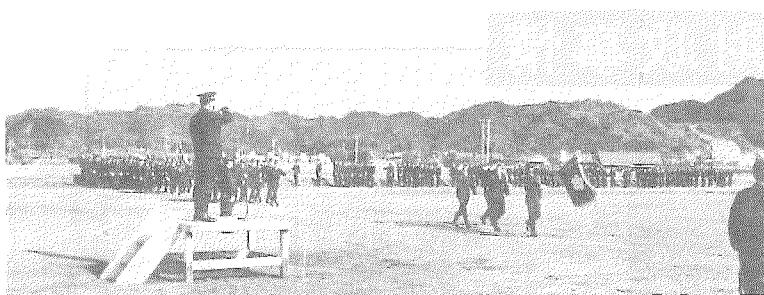
ます。町村においては、限られた財源の中で町民のご要望に応えてゆかねばなりません。いかにして皆様の付託に応えていくべきかが今後議会に課せられた責任であります。

これら問題を解決するため、

町民皆様の絶大なるご支援・ご協

力を議会にたまわりますよう心か

らお願い申し上げて、新春のご挨拶といたします。



(分列行進)



(永年勤続表彰…奥さんともども)

一月九日 新春恒例の消防出初式が町公民館広場で挙行されました。強い北風の吹く中、岩根町長による開闢、通常点検そして町内消防団員二百六名による勇壮な分列行進つづいてポンプ操法、消防

# 勇壯活潑に消防出初式

幸せを明日につなぐ火の始末

車十三台による一斉放水演習なども、いずれも活発、機敏なものでしからず、岩根町長は式辞の中で「町民の期待に応えられるよう、又、有事に際して大きな効果を發揮できること」を、よう日常の研鑽に励んで下さる。

と団員を激勵して永  
吉消防団長が、「町民の生命と財  
産を守るために全団員一致団結し  
ていく」という力強い決意を述べ  
ました。

(新しく配置された消防積載車)

消防力の近代化・充実が叫ばれる今日、この三台の積載車の配置は、機動力のアップとともに、消防団員の志気をも高め、今後の消防行政に大きな役割を果たすものと思われます。

昨年十二月、船津、北山、木津  
志分団に待望の消防積載車が配置  
されました。

地福力、上野政春、本  
山久夫（以上米山）児玉  
虎男、横山英人、大重幸  
男、池田耕夫、向江正秀  
内村文雄（以上上名）新  
村秋則（平松）

米宗宣  
千穂、八代正、中野幹男  
(以上米山) 内村光男(一  
下名)  
勤続章(三十年)  
春山国治(脇元) 村田  
一男(松原)

春山国治（脇元）  
村田一男（松原）

雨之信 黑江英博（一）  
部 福留光春（船津）二  
吉 軒夫（北山）徳田幸三  
(建昌)

△ 優良分団表彰  
△ 優良団員表彰  
三叉分団

志（以上本部）森 隆、大坪 仁  
夫、竹下明広（以上脇元）川路

幸徳、米満剛、東英男（以上疏  
昌）池田明生、隈元輝之、志

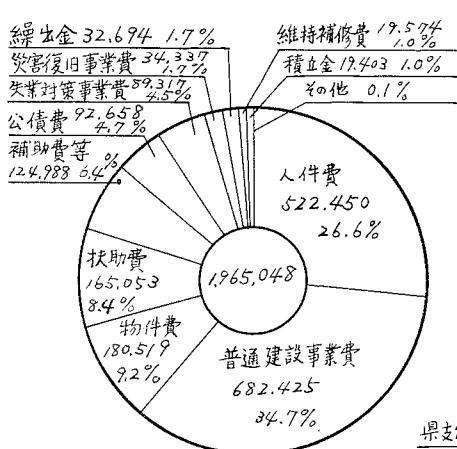
岡一見（以上北山）

福貴迫常男・恵美子(米山)

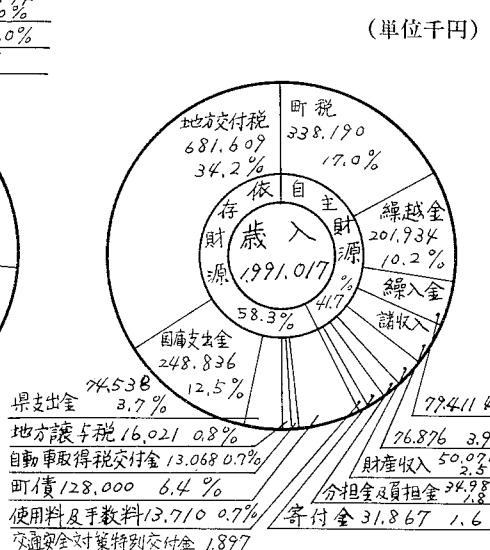
社会福利法人敬天会  
始良幸風園

## 始長町の財政事情

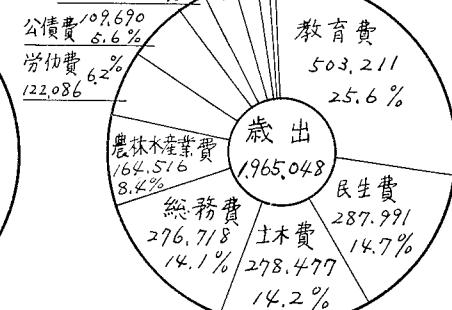
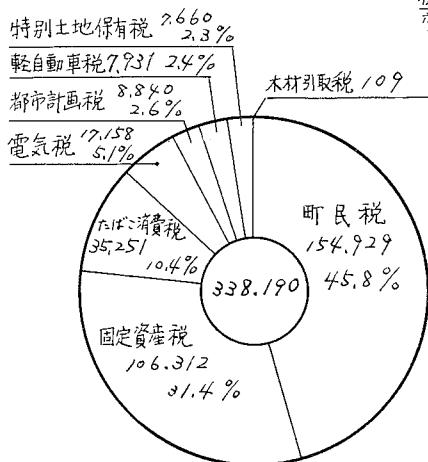
一性質別歳出一



-49年度一般会計決算状況-



一税収入内訳一



**各費目順調に伸びる  
昭和四十九年度の決算状況**

昭和四十九年度の決算が公表されたのが昨年十一月、これは町条例に基づいて、昭和五十年度上半期の財政状況とともに公表されたものです。今回は、昭和四十九年度決算の概要を中心にお知らせします。

## ◇昭和四十九年度決算状況

## 一般会計

昭和四十  
九年度の歳  
入総額は十  
九億九千百  
万七千円と  
なり、前  
年に比べて  
八千五百万  
円余りの減  
となりま  
した。これは  
た。これは  
た。

昭和四十九年度末における町有財産は次のとおりです。  
▽基金：出資金、有価証券及び貸付金：85,650万円  
▽建物：4万3,6万1,770m<sup>2</sup>  
▽土地：14,36万1,770m<sup>2</sup>  
▽山林  
面積：11,10万6,886m<sup>2</sup>  
立木（推定）：4万1,694m<sup>3</sup>  
▽物品（消防自動車ほか）：61台

由  
です。  
町税は前  
年に比べて  
減が主な理  
由です。

国民健康保険事業勘定  
歳入額 三億七千二百八十八万六  
千円

円余りの増となりました。

これは主に、個人町民によるもので、また地方交付税の一億三千六百万円余りの増は、財政需用額（行政に必要な標準的経費）の増によるものです。

決算で差引き四百十八万二千円の黒字となりました。また、皆さんが負担した国民健康保険税の収入は、八千百七十五万六千円、被保険者一人当たりの負担額は、七千七百二円となりました。

## 上半期一般会計の状況

昭和五十年度上半期の歳入歳出予算額は当初十七億四千七百七十

円を併せて九月末現在では十八億七千四百八十二万五千円となつて

万八千円でしたが昨年九月末までの補正一億一千三百五十二万五千円を併せて九月末現在では十八億一方、支出済み額は六億三百二十万三千円で執行率は三十三・七

パーセントとなっています。

この期間における収入済額は八億七千四百七十一万三千円で収入割合は四十六・七パーセントです一方、支出済み額は六億三百二十万三千円、執行割合は五十五パーセントです。



(もぐら打ち)



(集めた餅でぜんざいをつくる…)

「部落の行事を伝えていくためにももっと集まりを良くしよう」  
「これから若人会も人數が減つてしまつた。コースは諏訪神社→上水流停留所→重久橋の二往復（九・七キロメートル）。各チームは、必ずお父さん、お母さんをメンバ

流城下、森山の三部落合同による第四回親善駅伝大会が開催されました。コースは諏訪神社→上水流停留所→重久橋の二往復（九・七キロメートル）。各チームは、必ずお父さん、お母さんをメンバ

成績は次のとおりです。

一位 森山A（二十四分三十秒）

二位 城下A 三位 上水流

四位 城下B 五位 森山B

六位 城下C 七位 森山C

まだ四回目というこの新しい部落の行事ですが、幅広い年代にわたりて参加できるせいもあって、走る人も応援する人も一生懸命、皆さんの中に自分たちの行事として定着しているようです。

人、晴れ上がった元旦の空の下で懸命の力走が展開されました。

## 正月行事二題

いまも受けつがれる

もぐら打ち

### 一木津志若人会

農作物の豊作を祈つての子供たちの行事であるモグラ打ちは、年の初め（一月十四日）に田畠を荒らすモグラを退治するというものですが、木津志部落の子供会（若人会）によつて今も受けつがっています。

午後七時半、この日「モグラ打つの十四日、栗ん餅やいらんど、米ん餅をくいやんせ」と大声で叫びながら「たき棒」で各家の庭先をポンポンたたいてまわると、訪問を受けた家々は正月残りの餅や菓子などをモグラ

に話しかけられました。  
「学校で自分たちの行事のことを話したらみんなうらやましがられた。もっともっと行事をふやかしていこう」と部落の行事を伝えていくためにもっとと集まりを良くしよう」

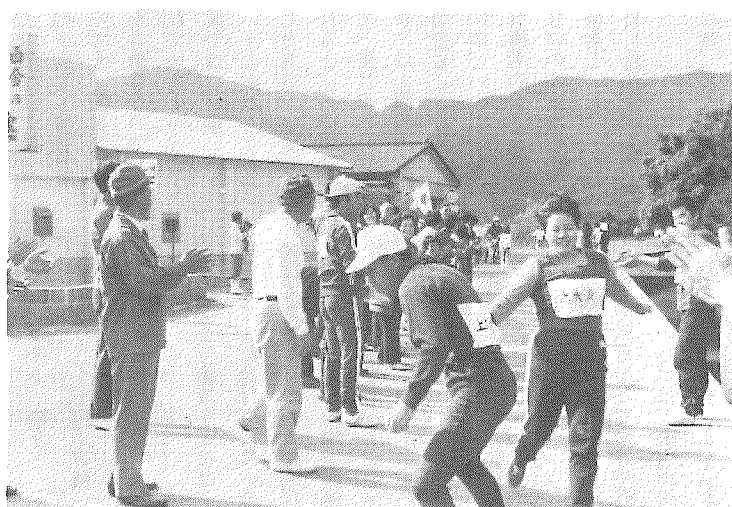
十五人が部落公民館に集合、ワラを固めてつくった「たき棒」を各自持って部落内の巡回がはじまりました。

「モグラ打つの十四日、栗ん餅やいらんど、米ん餅をくいやんせ」と大声で叫びながら「たき棒」で各家の庭先をポンポンたたいてまわると、訪問を受けた家々は正月残りの餅や菓子などをモグラに話しかけられました。  
「学校で自分たちの行事のことを話したらみんなうらやましがられた。もっともっと行事をふやかしていこう」と部落の行事を伝えていくためにもっとと集まりを良くしよう」

打ちのお礼として子供たちに上げ元気づけてやることです。

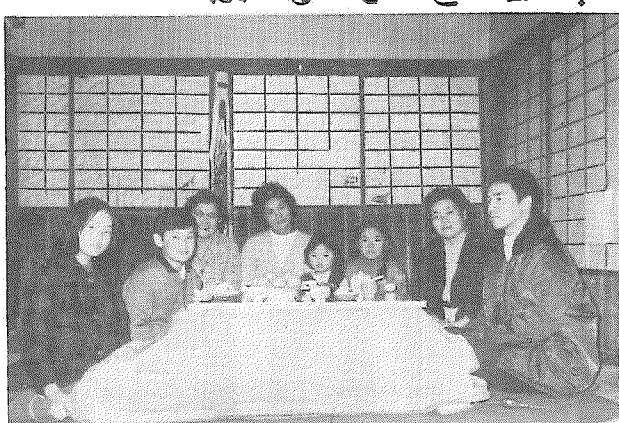
このようにして巡回すること一時間余り、たくさん餅が集まりました。さて、子供たちにとって楽しみはこれからです。集めたこの餅でぜんざいがつくられ、子供たちだけの新年会がはじまりました。自分たちで作ったぜんざいに舌鼓を打ちながら、昨年の活動の反省や、今年の抱負なども賑やかに話し合われました。

## 三部落合同で駅伝大会 チビッ子からお父さんお母さんまで参加



(小学生からお父さんお母さんまで参加)

# 中国から里帰り ここがお母さんの ふるさとヨ！



玉利さん（中央3人）・日高さん（左3人・同じく中国帰還者）……浜島さん宅で

玉利文子さん（48）とその子供さん九梅（チユーメイ）ちゃん春景（ツンシン）ちゃんが、中国から里帰りしてもう一月余り、現在在、実姉、浜島民子さん宅（星ヶ山部落）で十八年ぶりの郷里での生活を味わっています。

玉利さんは、戦前中国へ渡り、現地で結婚して、そのままご主人の地に留ったもので、昭和三十二年星帰りしたことですが、その後の郷里の変化に驚かれているようです。

玉利さんの中国での住所は、河北省易県管頭公社下臨刹大队で、河ご主人と三人の子供さんの五人暮らし、農業に従事しているそうです。今回は、九梅ちゃんと春景ち

ゃんに、お母さんの古里を味わわせようとしていることで帰郷したもの

九梅ちゃん（十二歳）は現在、山田小の四年生に入学して勉強中友だちもできました。日本語をしっかり勉強して、また日本にきたい（これが九梅ちゃんの感想です）。また、春景ちゃん（五歳）は日本本の童謡をいくつも覚えました。「村のかじや・おててつなで・どんぐりころころ」など、そしてテレビのコマーシャルソングも得意です。

浜島さん宅は、ご主人が働きに出ているため、息子さんと一緒に暮

な毎日だそうです。

玉利さんの日本滞在は五月まで

とのこと、楽しい思い出をつく

と、また帰ってきてください。



（田之神さあへお供えして…）



（歌って踊って…講もたけなわ）

次回からは各戸から夫婦で出席するように

する。そこでこの講をさらに賑やかに、盛んなものにしていこう。

田之神様金の時より、白米一升宛貯金すること、但しその年、座元の人が白米を取りそろえ売却してその金を郵便貯金にすること

**伝統有る  
部落の  
田之神講**

## 田之神講—西田部落

十一月十二日、西田部落で田之神講が開かれました。

今回の座元、児玉エイさんの家では、皆を迎える準備もすっかり整いました。田んぼが見渡せるようになると部落公民館近くに移された田之神様に礼拝して、さあ開宴です。旦那様方はもちろん、奥様方も

も焼酎に砂糖を加えて、飲むにつれ酔いつれ、日常生活の話題や部落内の問題など、宴はますます

賑やかになっていきます。

田之神講が年一回、いつの頃始まつたのかわかりませんが、自分が参加した大正の初めから今日まで欠くことなくつづいています」とは、ここで一番の長老、おタケおばさん（清水タケさん 七十四歳）の話です。

また、次は田之神講の会計記録からです。

『田之神講会の時金会 昭和十一年十一月二十五日より

「数少ない自分達の行事を守つて、そのために会費はできるだけ押さえ、えて、素朴に、簡素な料理ですませよ。

次回から

夫婦で出席

せよ。

田之神講の時金会 昭和十一年十一月二十五日より

（田之神さあへお供えして…）

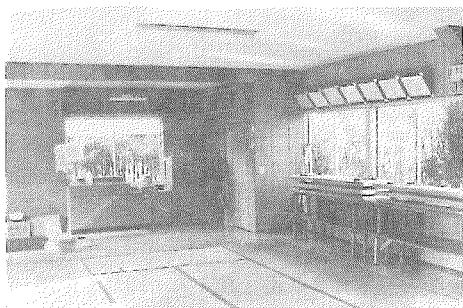
（歌って踊って…講もたけなわ）

（田之神さあへお供えして…）

（歌って踊って…講も



(俵原部落公民館全景)



(公民館内装)

一月十一日、俵原部落公民館の部成式が行なわれました。アルミサッシの明るい公民館の完成で部落の皆さんは、これから公民館活動に大いに活躍しています。

公民館建設は長い間、俵原部落の事業事項であったのですが、昨年十一月末、始良ゲージの譲り受けが可能になって急拠、実現の運びとなつたのです。

この新公民館は、十九・二五坪合掌作り、北側・西側はアルミサッシ、備品としては、テーブル、流し台、葬祭用の茶わん・皿五十人分など用意されています。建設費用は一切で百十万元、この資金づくりは、部落内永住希望

者五十四戸に均等に一万円ずつ割当てるという総会の決議に従って行なわれましたが、そうでない皆さんからの寄付もあり、九十四万三千円もの現金が集まりました。また、工事についても、古い公民館の取り壊しや、始良ゲージの解体、棟上げなど日曜日ごとに、延べ二百人余りの部落の皆さん奉仕作業が行なわれたとのことで

まさに、部落住民総ぐるみでつくり上げた公民館といえます。部落公民館長の前田兼英さんは「総会決議から完成まで、皆が力を合わせほんとうにスムーズに運びました。今後は、より一層の公民館

活動を行ない、この施設を存分に活用していきたい」と話していました。

なお、昨年十一月に高樋部落の公民館も建設されています。総工費一千五百万元、工事期間が三カ月余り、鉄筋で建坪は四十八坪三十六畳敷の集会場をもつ大きなものです。これに要する費用は部

落の共有林を充分して充てています。部落公民館長の安田清武さんの話は「新しいものができた部落の皆さんも又、新たな気持ちで公民館活動に取り組もう」という意欲に燃えています。誰でもが、気軽に自由に使える場所としてこの公民館を運営したい」ということでした。自分の部落もそろそろ、と考えているところがありましたら

この二つの公民館が良い参考になるとおもいます。

## 大空に舞う子どもも会たこ上げ大会



一月十八日、松原海岸埋立

地で百五十人余りが参加して

たこ上げ大会が開催されました。

北風の少し強いこの日は

絶好のたこ上げ日より、しかし

中には糸を切られて松原

の海へ飛んでいくのもいくつ

か。子供たちに手作りの楽し

みを味あわせたいと昨年十一

月末、子供会指導者 ジュニ

アリーダーを集めてのたこ作

者五十四戸に均等に一万円ずつ割当てるという総会の決議に従って行なわれましたが、そうでない皆さんからの寄付もあり、九十四万三千円もの現金が集まりました。また、工事についても、古い公民館の取り壊しや、始良ゲージの解体、棟上げなど日曜日ごとに、延べ二百人余りの部落の皆さん奉仕作業が行なわれたとのことで

## 一般加入電話の架設状況 — 加治木電報電話局 —

始良町で電話を申し込んでおられる方には長い期間お待たせしており大変迷惑をおかけしています。五十年十二月末現在、始良町まだ架設されていない申込み数は約一、八〇〇となつており、最近架設しましたのは一部線路設備不足の地域を除き、四十九年二月頃の申込み分です。

始良町の電話需要に対応するため加治木局はもとより、上部機関も含めて現在、設備の増設に全力をあげています。昨年七月には七五〇加入分の交換機が増設されましたが、更に今年二月には二、五〇〇加入分増設されます。また、これに伴つ線路設備の増設工事を現在行なっています。今年度の架設数については当初七五〇を計画していましたが、設備増設工事しておりましたが、設備増設工事の進展を極力スピードアップすることにより、更に三〇〇の追加架設をすることになりました。

このように設備の許す限り、で

きるだけ多くの電話を早期に架設することにしていますので、今後は待ち合せ時間が逐次短縮され

る見込みです。このため線路設備の状況によっては方面別に待ち合せ期間にある程度の差がでてお

ります。

順番がきても架設できない申込

みについては個別管理を徹底し、

その方面的線路増設工事の進展を

一層早めるよう努力しております。

このような状況でございますの

で何分のご理解とご協力をいた

ります。

(なお、町として交渉を重ねて

きている北山、上名、木津志の地

域、集団電話設置の件については、

本年度に設置できるよう方向で

計画が進められつつあるといっ

ています)

## 成人の主張

## 生涯心に青春を

井尻光代（馬場部落）

遠い日、と思つてはいたこの成人式を、今自分のもとに迎えることができました。そういうものの、やはり正直にいって実感が湧きません。昨日まで子供と大人の間をさまよいながら、時には甘え又、時には大人ぶつてみたこともあります。皆様方はいかがでしようか「二十歳」：その言葉の上には責任…という何かしら支えきれぬ程の大きなものが伴つているような気がして、ただただ不安な気持ちを隠すことができない私はです。

それでも青春の真っ只中・二十歳…たった一言の二十歳という言葉の中に大変すばらしい響きがあるとお思いになりませんでしょうか。その響きの中で、私達はそれぞれの青春時代を生きています

私は何気ない時に、ふつと、ああ、これが青春なんだな…と考えます。仕事する時、遊ぶ時、笑う時、悩む時…といった具合で、ささいなことに青春を感じる私はです。今のが最も充実した時を刻めるのは、精一杯やつて、その結果人に喜んでもらえた時です。

やつと、その喜びを感じられるようになりました。人は、考えがよくなりました。人は、考えが甘いとおっしゃるかもしれません



(決意を述べる井尻さん)

今の世の中、理想ばかり追つては、やつていけない…ということがわかりております。

でも、人生から夢が消えたら、それほどみじめな寂しい生活はな

いと思うのです。私はそうなりた

くなかった。そして私が一生に一

は言われます。

「鹿児島って、ほんとに良い所ですかね。是非又来たいなー」と。で

すから、私のお別れのあいさつにさようならはありません。又の

お越しを心よりお待ち申し上げております。それだけです。こんな

に発展してきた世の中で、今なお自然があり、人々の心のぬくもりを感じられるのがこの鹿児島ではないかと思います。いわゆる「心

のふるさと鹿児島」です。

でもお客様は、ガイドという一

個人間を見、鹿児島人の人格と評価されるわけです。そして鹿児島の印象をよりよくするか否かも

やはり私共の手にかかるといふ

が苦しいことがあるとしても、す

す。明るい日射しに、空は高く海はエメラルドに輝き、熱帯樹は生い茂る南の国鹿児島…とご案内に入れますが、この文も好きです。

お客様は北海道より沖縄まで：

又、時には外人の団体さんもいら

つしやいます。日本の、いえ、

ともわかつております。

でも、人生から夢が消えたら、

それほどみじめな寂しい生活はな

いと思うのです。私はそうなりた

くなかった。そして私が一生に一

は言われます。

「鹿児島って、ほんとに良い所ですかね。是非又来たいなー」と。で

すから、私のお別れのあいさつに

さようならはありません。又の

お越しを心よりお待ち申し上げ

おります。それだけです。こんな

に発展してきた世の中で、今なお

自然があり、人々の心のぬくもり

を感じられるのがこの鹿児島では

ないかと思います。いわゆる「心

のふるさと鹿児島」です。

でもお客様は、ガイドという一

個人間を見、鹿児島人の人格と

評価されるわけです。そして鹿児

島の印象をよりよくするか否かも

やはり私共の手にかかるといふ

が苦しいことがあるとしても、す

ばらしい人生を送ることができます。

ではないかと思つております。

私も鹿児島のために、旅行者の

ために、そしてもちろん自分自身

のために、この青春時代を力一杯

生きたいと思います。

今ここに集まつた成人者全員が

すばらしい人生を送り、そして、

世の人のために尽くし、正義感の

あります。大人になつていこう

ではありませんか。



## 始良句会作品

—池田若菜選—

冬菊の光

の中

にお

の

れ

老

ゆ

。

柏

木

終

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

。

